

展示紹介

江戸川乱歩と江戸川乱歩賞

二〇一九年度下半期は、センター開設後に乱歩邸を訪れた江戸川乱歩賞受賞者のサインを、その作品と共に展示しました。サインは、乱歩が私的に使っていた原稿用紙にお願いしました。

のベレー帽が贈られました。その席で乱歩は、探偵小説奨励のため日本探偵作家クラブに百万円の寄付を決め、賞の設立を提案しています。そして乱歩は正賞として、シャロロック・ホームズの

回は早川書房「ハヤカワ・ポケット・ミステリの出版」となっており、当初は小説以外の業績を対象としていました。しかし、中島から「書下し長編を募集して、その最高作に贈ってはいかが」という提案がなされ、受賞作が講談社から出版されるという現在の形となりました。

最新の第六十五回江戸川乱歩賞は、神護かずみ氏が『アウォールをまとう女』で受賞されましたが、同賞は昭和二十九年（一九五四）年、乱歩還暦祝賀会の席上で生まれました。祝賀会には捕物作家クラブや二十七日会東京作家クラブなどの会員が集い、日本探偵作家クラブから緋色のジャンパーと乱歩好み

ブロンズ像を思い立ち、十個、つまりは十年分を寄贈しました。ちなみに第四十九回からは江戸川乱歩の胸像となっています。第一回受賞作は中島河太郎「探偵小説事典」、第二



江戸川乱歩賞正賞
シャロロック・ホームズ像
(1955年製)



江戸川乱歩賞展示

